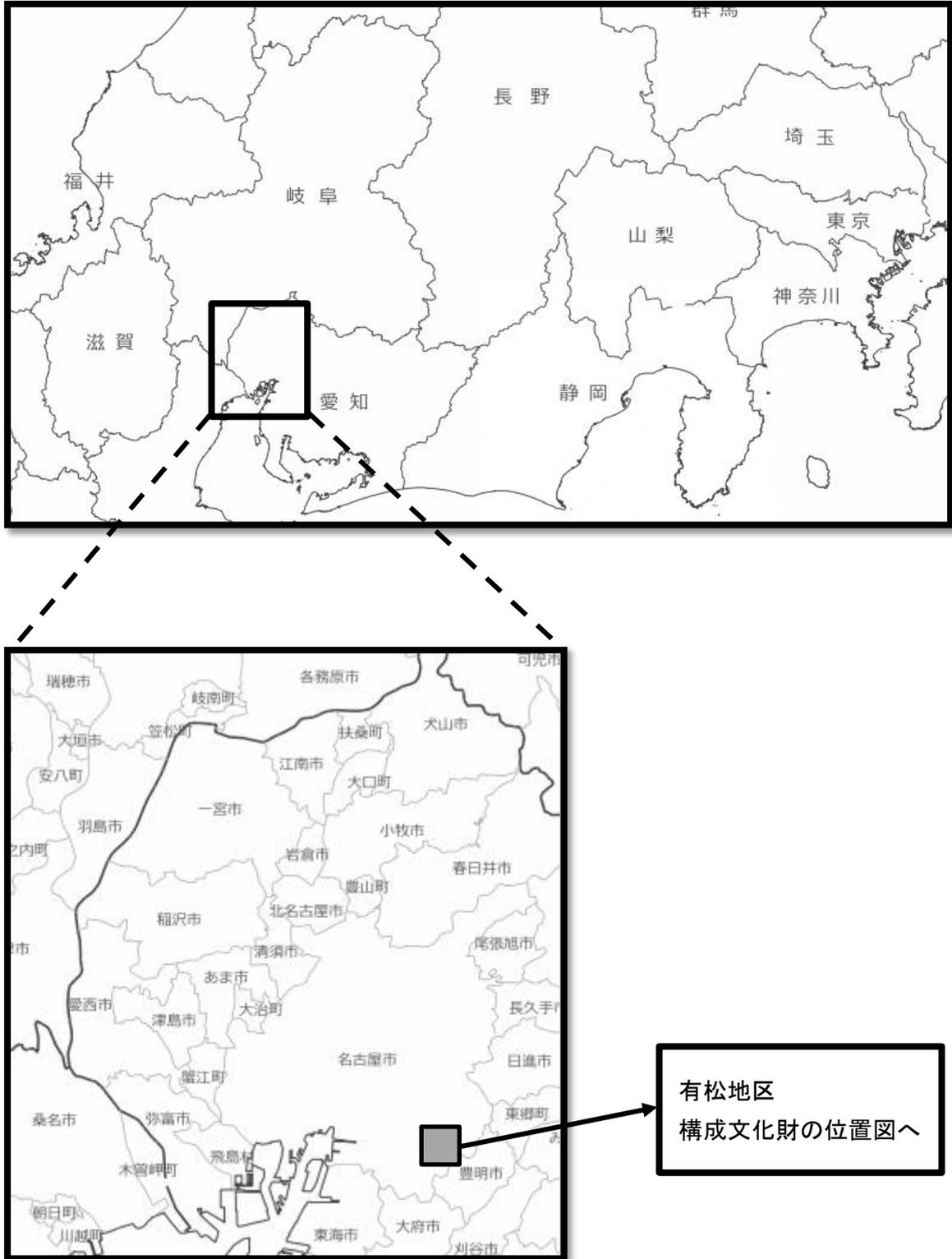


① 申請者	名古屋市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
(ふりがな)	えどじだいのじょうちよにふれるしぼりのさんち ~あいぞめがかぜにゆれるまち ありまつ~		
江戸時代の情緒に触れる絞りの産地 ~藍染が風にゆれる町 有松~			
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
<p>どこまでも広がる藍色の空の下、藍で染められた絞り暖簾が風にゆれる古い商家の落ち着いた佇まい。絞りの町「有松」には、江戸時代の浮世絵さながらの景観が今も静かに広がっています。</p> <p>「ほしいもの 有松染めよ 人の身の あぶら絞りし 金にかえても」</p> <p>この歌を詠んだ『東海道中膝栗毛』の主人公の弥次さんは、絞りの素晴らしさに魅せられて手拭いを買いました。旅のお土産として、世界に知られている有松の絞りはいかがですか。</p> <p>四百年の歴史を持つ有松の江戸文化は、今も多くの人々を魅了しています。</p>			
絞り浴衣本藍染鎧段		有松の町並みと絞り暖簾	
からくり人形を載せた山車		からくり人形を載せた山車	
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名			
電話	052-253-9278	FAX	052-253-9217
E-mail	a3268@kyoiku.city.nagoya.lg.jp		
住所	愛知県名古屋市東区泉一丁目1番4号		

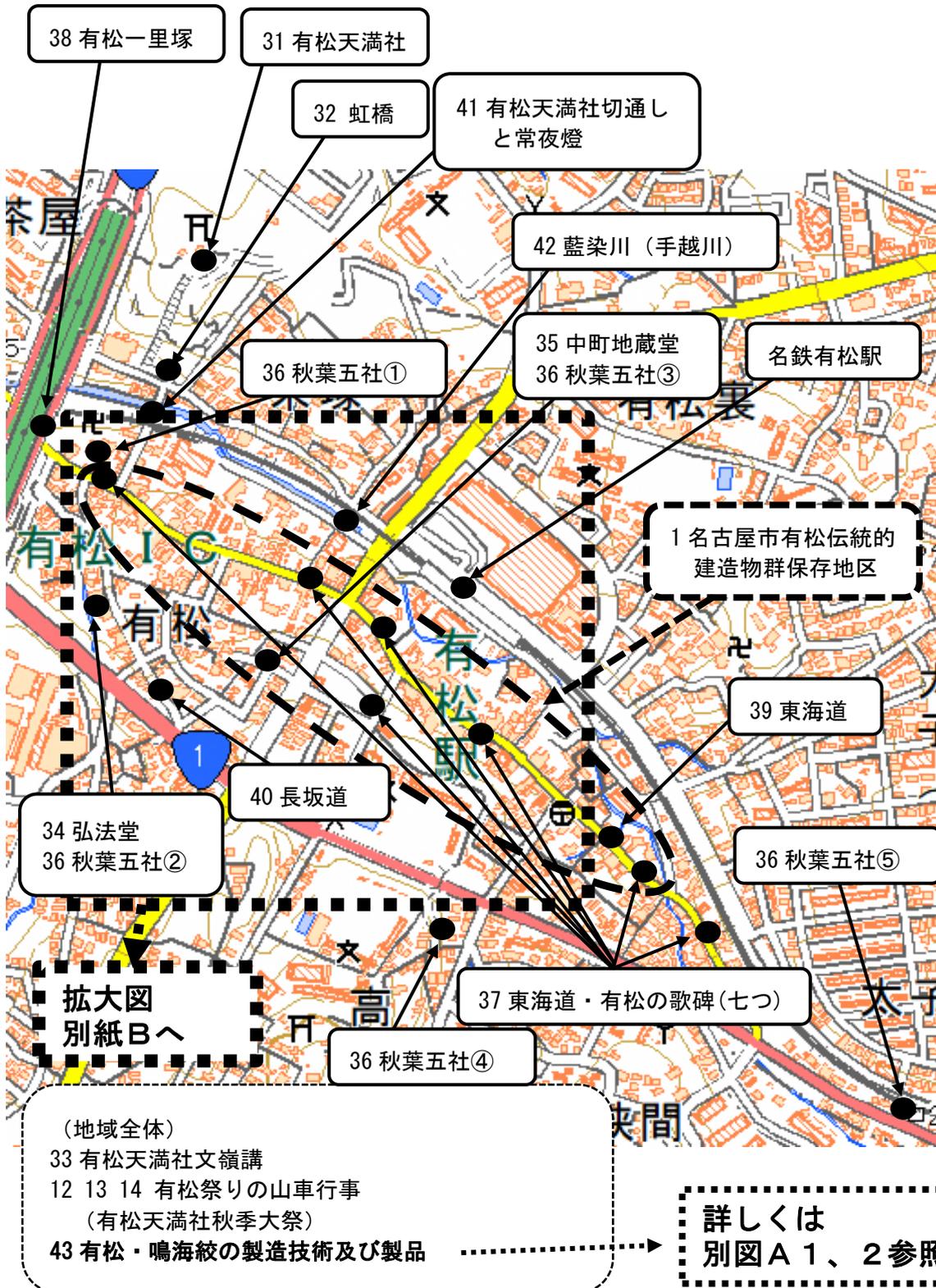
市町村の位置図（地図等）



※国土地理院地図データをもとに作成（以下頁の地図全て同じ）

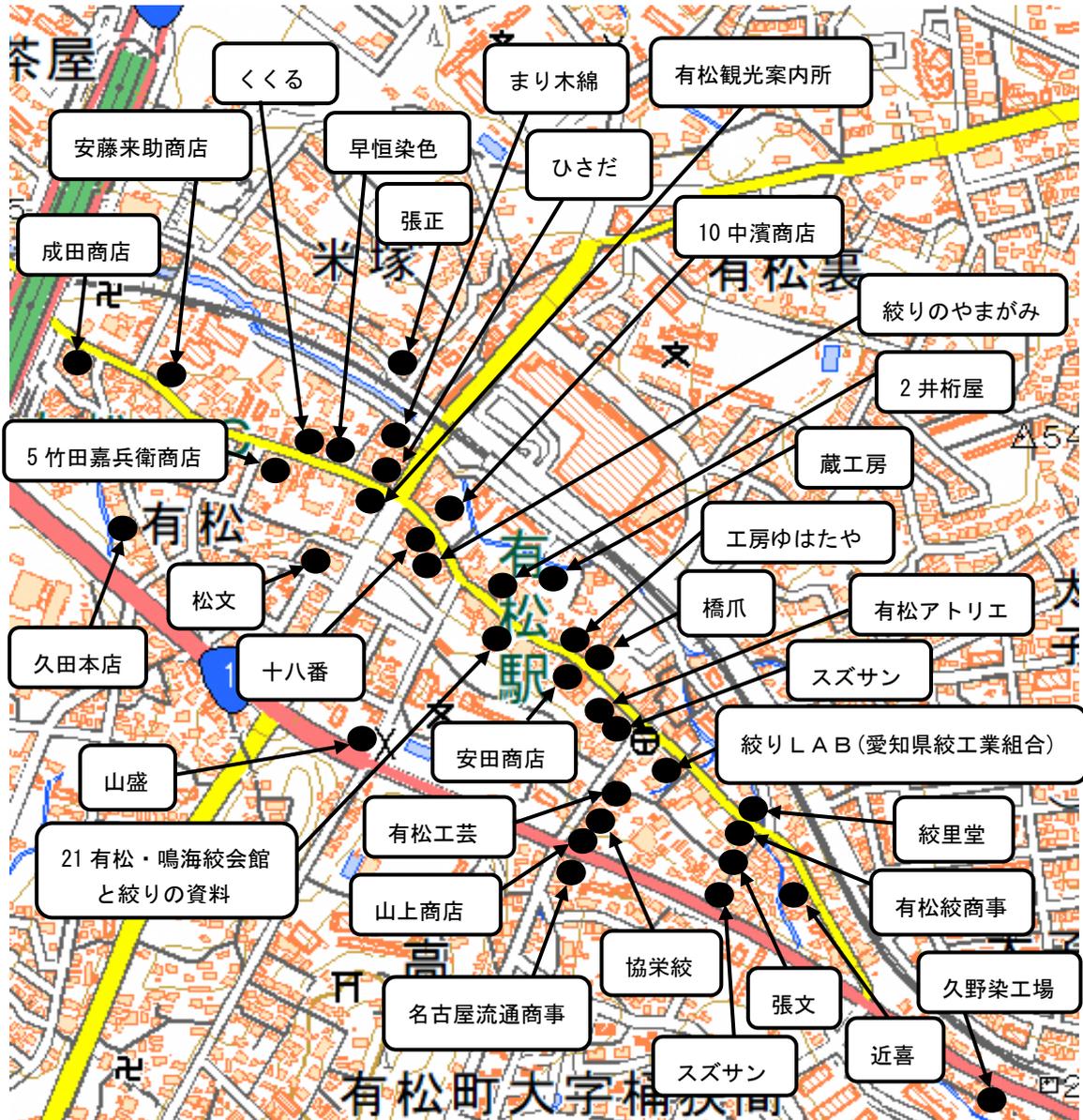
構成文化財の位置図 (地図等)

有松地区構成文化財の位置図



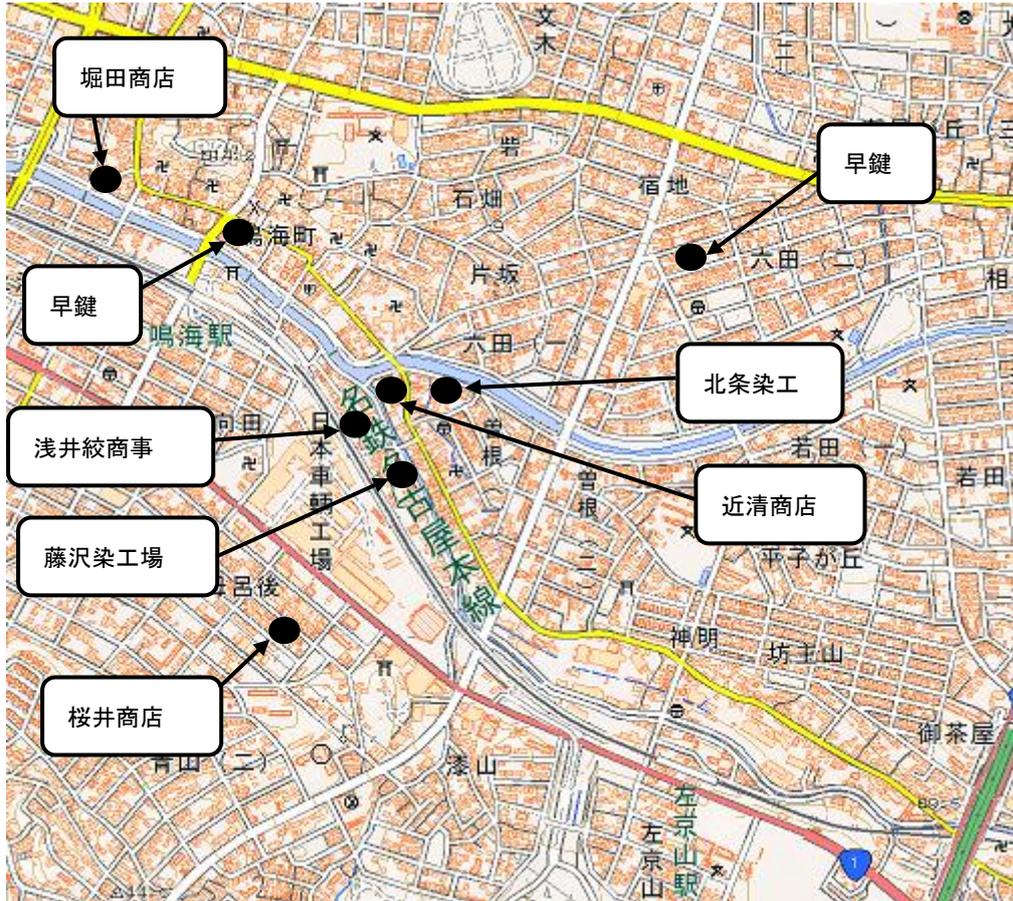
構成文化財の位置図（地図等）別図 A 1

43 有松・鳴海絞の製造技術及び製品（有松地区）



構成文化財の位置図（地図等）別図 A 2

43 有松・鳴海絞の製造技術及び製品（鳴海地区）



構成文化財の位置図 (地図等) 拡大図別紙B (伝建地区)



ストーリー

◆絞りの町「有松」へようこそ

名鉄名古屋駅から名鉄名古屋本線の電車で揺られて20分。有松駅の改札口を出ると、大きな案内看板が目飛び込んで来ます。看板の矢印に従って歩くとすぐに無電柱化された東海道沿いの古い町並みに出会います。それが絞りの町「有松」です。どこまでも広がる藍色の空の下、藍で染められた絞り暖簾が風にゆれる古き商家の落ち着いた佇まい。江戸時代さながらの景観が今も静かに広がっています。



有松の町並み

◆弥次さん喜多さんも楽しんだ有松での買い物

今から二百年ほど前に十返舎一九が書いた『東海道中膝栗毛』をご存じでしょうか。この本の主人公の弥次さん喜多さんは、お伊勢参りの徒歩旅行の途中に東海道を東から有松の町に入りましたが、電車で訪れる現代の観光客は有松駅から南へ歩いて入ります。有松で、弥次さんはお土産として東海道名物の絞りの手拭いを購入しました。二百年後の今も同じようにお土産を買う事が出来ます。

「絞り」は古代から伝わる染めの技法。布を縛って皺を寄せ、生地を幅を縮め固定した後に染色を行い、縛り糸を抜き取って完成です。いかに白地を残すかが大事だと言われています。工程は大きく分けて図案選定、型紙取り、下絵刷り、絞り加工（括り）、染色、糸抜き、仕上げの7つからなり、それぞれ分業で営まれ、有松周辺の多くの人携わっていました。

『有松・鳴海絞』が国の伝統的工芸品に指定されている有松・鳴海地域は、世界一絞り技法の多い絞り染めの産地として知られており、江戸時代には尾張藩の庇護のもと、将軍献上の高級品として珍重され、地域の繁栄を支えてきました。その後、明治維新により絞産業は一時衰退しましたが、様々な努力により復興し、明治時代から大正時代にかけて最盛期を迎えました。絞商の援助により鉄道の延伸と有松駅の設置、学校の開設が実現し、この地域は大いに発展しました。現在の有松は名古屋の重要な歴史観光資源となっています。

東海道から有松の町をぐるりと見回せば、伝統的なものから近代的なものまで様々な「絞り」に出会うことでしょう。着物、浴衣はもちろん、洋装品、アクセサリ、装飾品などの開発にも有松・鳴海地域は力を注いでおり、様々なお店で販売されています。丸めると手のひらにすっぽり収まる絞りの洋服も評判です。ぜひ、その眼でお確かめ下さい。

◆有松・鳴海地域でしか出来ない絞り体験に挑戦しよう

東海道を東に進んで行くと、有松・鳴海絞会館が右手に見えて来ます。ここは有松・鳴海絞の資料展示と販売も行っており、絞りについて詳しく学べます。伝統工芸士による絞りの実演も見学出来ます。有松・鳴海地域の各所にある絞り工房では、ハンカチやスカーフなどの絞り体験も気軽に体験出来ます。弥次さん喜多さんが経験することが出来なかった絞り体験です。ぜひとも挑戦し「世界に一つだけの絞り」を素敵なお土産にして下さい。



絞りの糸抜き工程



有松・鳴海絞の商品



伝統工芸士の実演

◆有松の町並みを散策してみよう

絞り体験を満喫した後は、東海道約800mに沿って建ち並ぶ有松の町並み散策はいかがでしょう。この古い町並みは国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている価値の高いものです。町

並みに溶け込むように置かれた歌碑等とともに、その佇まいは見る者を魅了することでしょう。

何よりも素晴らしいのは、江戸時代の浮世絵にも描かれ、弥次さん喜多さんも眺めたその町並みが、そっくりそのまま残されていることです。



左側が歌川広重作『東海道五拾三次之内 鳴海 名物有松絞』、右側が現在の有松の町並みです。とても雰囲気似ていると思いませんか。この町並みは天明4（1784）年のほぼ全戸焼失した有松の大火からの復興によって形作られたものです。この時期に防火を考慮した総瓦葺・塗籠造の商家が建ち並ぶようになりました。有松の絞商を営む商家は他の地区と比べ間口が広く、太陽の日差しから藍染めの商品を守るために軒が低くなっているのが大きな特徴と言えます。大規模な建物には明かり取りの天窓もあります。実際に見て確認して下さい。

◆有松の伝統文化を満喫してみよう

今の有松には、弥次さん喜多さんの時代にはなかった魅力がたくさんあります。町中に精緻な技法の絞りが乱舞する6月の絞りまつり。笛や太鼓の音に乗って、山車3輛のからくり人形が躍る有松天満社の秋季大祭。ともに多くの観光客がやってくる人気の催しです。秋季大祭の夜祭りでは山車の提灯に灯がともり、とても幻想的です。



絞りまつり

3輛の山車は、いずれも名古屋周辺の山車の特徴であるからくり人形を載せた山車で、絞産業で潤った町の繁栄の象徴として祭礼に登場するようになったものです。そのうちの1輛は有松山車会館に展示されています。有松の隆盛が偲ばれる素晴らしい山車です。ぜひご覧下さい。



夜の山車まつり

町並み散策に疲れたら、商家を改装したカフェやレストランでゆったり時間を過ごす事も出来ます。宿泊をご希望でしたら商家改装のゲストハウスもあります。小さな驚きと新鮮な感動に会う、そんな町が有松です。訪れた人々をおもてなしの心で歓迎してくれます。心ゆくまで有松を満喫して下さい。

◆現代に息づく有松・鳴海地域の絞り文化

有松・鳴海地域が四百年間、不断の努力で技術開発を続けたことで、世界中で愛される「絞り」となりました。絞りは今では百種類を超える技法の素晴らしさで「Shibori=Shaped resist dyeing（立体的に防染された染物）」と定義され世界共通語となりました。世界20カ国の関係者を集めた国際絞り会議の開催、ワールド絞りネットワークの設立など、有松・鳴海絞の魅力を全世界に発信しています。また、有松は歴史的な町並みの保全に努力し、絞り産業、古い町並み、山車祭りといった歴史文化を活かし、繰り返し訪れてみたくなる魅力あるまちづくりに取り組んでいます。



国際絞り会議の展示作

弥次さん喜多さんが今の有松の様々な取り組みを見たら、きっと驚くことでしょう。

ストーリーの構成文化財予定一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	なごやしありまつでんとうき 名古屋市有松伝統的 けんぞうぶつぐんほぜんちく 建造物群保存地区	国重伝建	全国で唯一『染織町』として国の重伝建に選定された有松の町並み。ゆるやかに曲がる東海道に沿った有松の町は絞りとともに発展してきました。ストーリーで語られたように江戸時代の浮世絵さながらの風景を今も維持しており、絞商特有の広い間口を持つ主屋建物が数多く残されています。ストーリーのイメージを実体験するための重要な構成要素であり、下記の各文化財をエリアの中に含んでいます。	
2	はっとりけいじゅうたく 服部家住宅 (いげなや 井桁屋)	県有形 (建造物)	服部孫兵衛家(井桁屋)は寛政2年(1790)に創業した絞商。敷地間口は有松で最大。有力な絞商の屋敷構えを今もよく残しています。ストーリーで語られる天窓もあります。主屋は文久元年(1861)建造。	
3	はっとりこうへいけいじゅうたくくら 服部幸平家住宅倉	県有形 (建造物)	服部幸平家は、服部孫兵衛家(井桁屋)の分家にあたり、服部孫兵衛家の東隣を占めます。倉は、服部孫兵衛家の屋敷の一部を構成していましたが、分家の際し、元の位置のまま、服部幸平家に譲られたものです。	
4	はっとりよしやけいじゅうたく 服部良也家住宅	未指定 (建造物)	明治期に創業した絞商の屋敷の大部分が当時のまま残っています。主屋は明治28年(1895)建造。	
5	たけだけいじゅうたく 竹田家住宅 (たけだかへえしやうてん 竹田嘉兵衛商店)	市有形 (建造物)	竹田家は絞開祖竹田庄九郎家の一族で、寛保年間(1741~1744)に絞業を営んでいた竹田嘉七郎に始まると伝えられています。第14代将軍徳川家茂も訪れたとされる竹田庄九郎旧宅や茶室、明治から大正にかけて整備された建物が現存しています。主屋は江戸末期建造。	
6	たけだけちやしつ 竹田家茶室 さいしやうあん 裁松庵	市有形 (建造物)	幕末の動乱期に東海道を西上した第14代将軍徳川家茂も訪れたという竹田庄九郎旧宅の茶室です。	

7	こづかけじゅうたく 小塚家住宅	市有形 (建造物)	小塚家が有松に居を構えたのは、寛文年間(1661~1673)とされています。卯建をあげる主屋が特徴的で、絞商の屋敷構えが一式で残っています。主屋は文久2年(1862)建造。	
8	おかかけじゅうたく 岡家住宅	市有形 (建造物)	主屋の間口は、有松の伝統的建造物の中では最大。江戸末期の絞商の特徴を今も残しています。江戸末期頃建造と推定されています。ストーリーで語られる天窓もあります。	
9	としけいかんぼんじゅ 都市景観保存樹 クロガネモチ	未指定 (天然記念物) ※市都市景観 保存樹	上記2の服部家住宅に立派なクロガネモチがそびえています。有松地区最古の樹木で名古屋市都市景観保存樹に指定されています。東海道開通の頃から有松の歴史を見守ってきた大木です。ストーリーで語られた全村焼失の天明の大火にも耐えました。現在の建物が建てられる前からあり、この木を残すように家が建てられています。	
10	なかはまけじゅうたく 中濱家住宅 なかはましょうてん (中濱商店)	国登録有形	当初は、絞商の山田与吉郎家の建物でしたが、平成16年(2004)からは中濱家(中濱商店)の建物として使われています。主屋は明治中期頃建造。	
11	たなはしけじゅうたく 棚橋家住宅	国登録有形	有松を代表する絞商(大井桁屋)の建物として建てられ、昭和8年(1933)からは棚橋医院として約50年間使われていました。ストーリーで語られる天窓もあります。主屋は明治8年(1875)建造。	

1 2		じんぐうこうごうしゃ 神功皇后車 にしまちだしこ (西町山車庫)			
1 3	有松祭りの山車行事 (有松天満社秋季大祭)	からこししゃ 唐子車 なかまちだしこ (中町山車庫)	市無形民俗	有松の 3 輛の山車は昭和 48 年 2 月 1 日に市の有形民俗文化財に指定されましたが、その後、平成 26 年 3 月 31 日に山車行事を含んだ無形民俗文化財に切り替えられました。絞産業の繁栄の中で豪華になっていった有松の祭礼を象徴する山車です。 山車行事である有松天満社秋季大祭は江戸時代から続くまつりで、かつては絞産業の閑散期である旧暦 8 月 14、15 日に行われていました。戦時中は山車の曳行が取りやめられ、その後も隔年で曳行されたりしていましたが、平成になってからは、毎年 10 月の第 1 日曜日に曳行されています。 まつりでは、西町の神功皇后車、中町の唐子車、東町の布袋車の 3 輛の山車からくりが披露されます。文字書きのからくり人形が同一地区の二つの山車に乗せられているのは有松だけの特徴で、そのうちの一つは名古屋最古のものです。また、残る一つの山車の鮎釣り人形も舌を伸ばすなど個性的な動きをします。いずれのからくりも、古い歴史を持ち何度も修理されながら、保存されています。 このまつりには各町内の山車の囃子方、楫方がそれぞれ有松絞りの半纏をまとい参加します。趣向を凝らしたそれぞれの祭装束も楽しみのひとつです。 絞産業の隆盛により花開いたまつり文化はストーリーを構成する重要な要素です。	
1 4		ほていししゃ 布袋車 ひがしまちだしこ (東町山車庫)			
1 5		ありまつだし かいかん 有松山車会館	未指定 (無形民俗)	名古屋市の文化財である有松祭りの山車 3 輛を毎年入替で展示し、曳行の様子をビデオ (英語対応) で紹介するなど、ストーリーで語られているまつり文化を紹介しています。	
1 6		やま だ け じゅうたく 山田家住宅 きゅうやまだ やの きょく (旧山田薬局)	未指定 (建造物)	寛政 3 年 (1791) の棟札が残る山田家住宅 (旧山田薬局) を改装して、観光案内所として活用中。 ストーリーの舞台となる有松を散策される際には、ぜひご活用下さい。	

17	こんとうけじゅうたく 近藤家住宅	未指定 (建造物)	昭和初期の建造である近藤家住宅を改装して、ゲストハウスとして活用中。宿泊者に占める外国人の比率は6割です。 ストーリーの舞台となる有松を散策される際には、下記の飲食店ともども、ぜひご活用下さい。
18	きゅうたけだしょうくろうけじゅうたく 旧竹田庄九郎家住宅	未指定 (建造物)	弘化3年(1846)の床板が残る旧竹田庄九郎家を改装して、カフェとして活用中。
19	かみやけじゅうたく かみほん 神谷家住宅 (神半)	未指定 (建造物)	昭和初期の建造である神谷家住宅と土蔵を飲食店「やまと」「ダーシェンカ蔵」として活用中。
20	はっとりけじゅうたく (いげじゅう) 服部家住宅 (いげ十)	未指定 (建造物)	明治初期の建造である服部家住宅(いげ十)を飲食店として活用中。寿限無茶屋の敷地内には蔵も残っています。蔵の大きさとしては有松に残る最大のものと言われています。
21	ありまつ なるみしほりかいかん 有松・鳴海絞会館 しほ しりょう と絞りの資料	未指定 (工芸技術) ※国指定伝統的工芸品	ストーリーで語られる有松の伝統産業である「絞り」を紹介するために、有松の町並みの中に昭和59年(1984)に竣工。貴重な絞りの資料展示や絞りの歴史・文化をビデオ(英語対応)で紹介し、絞り技術者による絞り実演も行っています。12月～3月の毎週水曜日は休館。
22	ぎおんじ ぶつそくせき 祇園寺、仏足石、 こうみょうこうごうきょうぶつせき か ひ 光明皇后恭仏跡歌碑、 さんじゅうさんかんのん じゅうろくらかんぞう 三十三観音、十六羅漢像	未指定 (建造物・彫刻・史跡)	祇園寺は有松の西端に位置しており、ストーリーで語られた有松の歴史を見守り続けてきたお寺です。有松の人々の菩提寺です。 宗派は曹洞宗。宝暦5年(1755)に、鳴海の円道寺より移設建立されました。尾張名所図会に描かれた状況を、今日もよく維持しており、仏足石、光明皇后恭仏跡歌碑、三十三観音、創建当時からの十六羅漢像などが現存しています。

2 3	にしまちねんぎょうじ 西町年行司	未指定 (建造物)	明治以降の建造で、ストーリーで語られる有松天満社の秋季大祭の際に西町の山車で使用されるからくり人形の組み立てが行われます。祇園寺の境内地と一体となって東海道沿いの景観に寄与しています。
2 4	えんめいじぞうぞん 延命地藏尊	未指定 (彫刻)	有松郵便局の東に小さなお堂があり、石造りのお地藏様がまつられています。江戸時代より有松の人々に守られてきたお地藏様です。以前は別の場所にありましたが、平成 10 年 (1998) に現在地に移されました。
2 5	ただだしょうくろうひ 竹田庄九郎碑 すずききんぞうひ 鈴木金蔵碑	未指定 (史跡) ※国重伝建 (工作物)	有松・鳴海絞会館の奥に有松絞り開祖竹田庄九郎碑と中興の祖鈴木金蔵碑が建碑されています。 二人とも、ストーリーで語られる絞りの技術開発の上で欠かす事が出来ない重要人物で、その石碑の前で毎年慰霊祭が行われています。
2 6	ありまつしょうがっこうかざもん 有松小学校飾り門	未指定 (建造物)	昭和 2 年 (1927) に建てられた旧木造校舎 (有松尋常高等小学校) に設けられた門で、グラウンドのすみに保存されています。 有松尋常高等小学校の高等科は明治 27 年 (1894) に設置されましたが、その設置運営には当時の有松の絞組合から多額の寄付が行われました。ストーリーで語られる絞産業の繁栄ぶりが偲ばれる飾り門です。
2 7	かつかいしゅう かけじく 勝海舟の掛軸	未指定 (書跡)	竹田家主屋の茶室の床の間に、勝海舟の条幅の掛軸が掛けられています。竹田家には、山岡鉄舟の掛軸もあります。ストーリーで語られた有松の繁栄を背景に、竹田嘉兵衛 (5 代) と勝海舟たちとは何らかの接点があったと考えられます。

28	<p>かくち へくらんかい 各地の博覧会の</p> <p>じゆしやうひやうしやうじやう 受賞表彰状</p>	未指定 (歴史資料)	<p>明治時代、日本の工芸・美術品は欧米で大変人気がありました。有松の絞商は、積極的に国外への販路拡大を行い、各地の博覧会にも有松絞りを出品しました。</p> <p>下記の各博覧会で受賞を果たし、服部家住宅や絞会館には、受賞の表彰状が飾ってあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1900年パリ万国博覧会銅賞 ・1910年ロンドン日英博覧会銀賞 ・1915年パナマ太平洋国際博覧会金賞 <p>ストーリーで語られる絞産業の繁栄ぶりが偲ばれる受賞表彰状です。</p>	
29	<p>らいさんやうじひつ 頼山陽自筆の</p> <p>かんし おうぎ 漢詩の扇</p>	未指定 (書跡)	<p>江戸時代後期の儒者・詩人の頼山陽が知人であった井桁屋に宿泊した際に残した頼山陽自筆の扇が服部家住宅に保存されています。</p> <p>有松の当時の繁栄の様子が漢詩で表現されています。</p> <p>この扇を模した石碑が有松・鳴海絞会館の入口に設置してあります。この石碑は下記37の東海道・有松の歌碑の一つでもあります。</p>	
30	<p>はっとりけ 服部家の</p> <p>よめい かご 嫁入り駕籠</p>	未指定 (工芸)	<p>服部孫兵衛家(井桁屋)三代・四代の結婚式の際に、花嫁が実家から嫁いで来た時の嫁入り駕籠がお店に入った正面の天井に飾ってあります。</p> <p>約180年～200年前のもので、有松の人々の生活を現代に伝える貴重な工芸品です。</p>	
31	<p>ありまつてんまんしゃ 有松天満社</p>	未指定 (建造物)	<p>有松天満社は有松の氏神さま。</p> <p>上記12～14の山車行事が奉納されている神社でもあります。</p> <p>菅原道真公を主祭神として七神が祀られています。もともとは祇園寺境内にあり、寛政時代(1789～1800)の初めに現在の場所に移されました。</p> <p>その後文政7年(1824)に改築されましたが、これも有松の人々から莫大な資材・基金の寄付を受け、八棟造りの豪華な社です。</p>	
32	<p>にじばし 虹橋</p>	未指定 (建造物)	<p>有松天満社の境内に参道と並行に設置されている小径に掛かる石橋</p> <p>もともとは神社参道の切通しにかかっていた橋で、尾張名所図会にも描かれている江戸時代の貴重な遺構です。</p>	

3 3	ありまつてんまんしゃぶんれいこう 有松天満社文嶺講	未指定 (無形民俗)	文嶺講は戦前から存在していましたが、昭和 21 年 (1946) 旧有松天満社氏子組織が文嶺講として公的に成立しました。昭和 39 年 (1964) 宗教法人となるとともに、上記 1 2 ~ 1 4 の有松の山車まつりや山車の管理も各町内から文嶺講に移管され、現在に引き継がれています。
3 4	こうぼうどう 弘法堂	未指定 (建造物)	長坂道沿いにある弘法大師をまつるお堂。 ストーリーで語られる有松の江戸情緒を現代に伝える貴重なお堂です。
3 5	なかもちじぞうどう 中町地藏堂	未指定 (建造物)	天王坂といわれる道沿いにあったものを道路拡張の時に現在地に移転したもので、汗かき地藏さんと呼ばれています。 ストーリーで語られる有松の江戸情緒を現代に伝える貴重なお堂です。
3 6	あきばごしや 秋葉五社	未指定 (建造物)	ストーリーで語られた天明 4 年 (1784) の有松大火に見舞われた有松には、篤い火伏せの信仰が根付いており、現在でも町内に秋葉社が 5 社祀られています。
3 7	とうかいどう ありまつ か ひ 東海道・有松の歌碑	未指定 (史跡)	ストーリーで語られたように『東海道中膝栗毛』や浮世絵の題材になった有松ですが、その他にも東海道・有松をテーマとした様々な歌が詠まれています。 それを語り継ぐため、東海道沿いに有松にちなんだ歌碑が七つ設置されています。
3 8	ありまついちりづか 有松一里塚	未指定 (史跡)	ストーリーの舞台である有松とは切っても切れない関係である東海道。その東海道の一里塚が大正時代までは残されていました。今の塚は、地元の強い要望により、平成 24 年 (2012) に再現されたものです。

39	とうかいどう 東海道	未指定 (史跡)	東海道は、有松の歴史の原点です。平成 25 年(2013)、無電柱化が行われ、かつての風情を取り戻しました。ストーリーに語られたように、東海道と有松の町並みは様々な浮世絵に描かれてきました。また、幕末の英国外交官のアーネスト・サトウは東海道を旅しましたが、その日記の中で有松の印象を、日本で見た中でもっとも清潔で豊かな感じのする町だと書いています。	
40	ながさかみち 長坂道	未指定 (史跡)	祇園寺門前から国道 1 号線に通じる小路で、東海道よりも歴史の古い道です。かつては、東海道に面した絞商の屋敷の裏道でもあり、道脇には紺屋などが点在していました。	
41	ありまつてんましやきりどおし 有松天満社切通し と常夜燈 じょうやとう	未指定 (史跡・建造物)	祇園寺東から北へ入り、上記 31 の有松天満社の鳥居まで約 150m の参道です。切通し入り口には天保 13 年(1842) 建立の常夜燈一対が今も立っています。途中にかかっていた石橋が上記 32 の虹橋で、今も有松天満社の境内に残されています。	
42	あいぞめがわ てごしがわ 藍染川(手越川)	未指定 (名勝)	この川は、かつては郡境となっていました。上流の染工場から流れる染料の藍で染まり、「藍染川」と親しまれた手越川。有松の江戸情緒を象徴する風景でした。現在では上下水道の設備が整い、昔のような藍色の水が流れる情景は無くなりました。	
43	ありまつ なるみしぼり 有松・鳴海絞の せいぞうぎじゅつおよ せいひん 製造技術及び製品	県登録 (工芸技術) ※国指定伝統的工芸品	昭和 50 年(1975)通産省(当時)伝統的工芸品指定である有松・鳴海絞。「縫う」「くくる」「たたむ」ことにより形作られる布地の立体的な凹凸が有松・鳴海絞の神髄。絞りは皺(しわ)の芸術であり、美学でもあります。ストーリーで語られたように、有松・鳴海地域では今も各種絞り製品が作られ、至るところで小売りが行われています。絞り工房においては、実際に絞りを体験することも出来ます。	

- (※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること（例：国史跡、国重文（工芸品）、県史跡、県有形、市無形等）。なお、**未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載**すること。
- (※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること（単に文化財の説明にならないように注意すること）。
- (※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること（複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること）。

構成文化財予定の写真一覧

1 名古屋市有松伝統的建造物群保存地区



2 服部家住宅（井桁屋）



3 服部幸平家住宅倉 4 服部良也家住宅



5 竹田家住宅（竹田嘉兵衛商店）



6 竹田家茶室 栽松庵



7 小塚家住宅



8 岡家住宅



9 都市景観保存樹クロガネモチ



10 中濱家住宅 (中濱商店)



11 棚橋家住宅



12 神功皇后車 (西町山車庫)



1 3 唐子車 (中町山車庫)



1 4 布袋車 (東町山車庫)



1 2 1 3 1 4 有松祭りの山車行事
(有松天満社秋季大祭)



1 5 有松山車会館



1 6 山田家住宅 (旧山田薬局)



1 7 近藤家住宅



1 8 旧竹田庄九郎家住宅



1 9 神谷家住宅 (神半)



2 0 服部家住宅 (いげ十)



2 1 有松・鳴海絞会館と絞りの資料



2 2 祇園寺、仏足石、光明皇后恭仏歌碑、
三十三観音、十六羅漢像



2 3 西町年行司



2 4 延命地藏尊



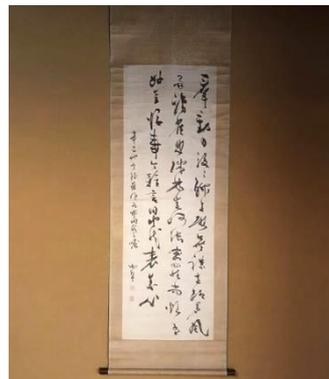
2 5 竹田庄九郎碑 鈴木金蔵碑



26 有松小学校飾り門



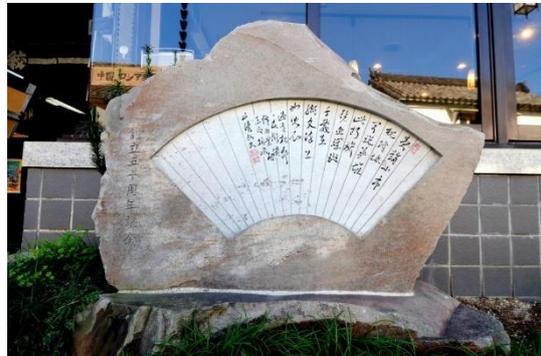
27 勝海舟の掛軸



28 各地の博覧会の受賞表彰状



29 頼山陽自筆の漢詩の扇



30 服部家の嫁入り駕籠



31 有松天満社



32 虹橋



33 有松天満社文嶺講



34 弘法堂



35 中町地藏堂



36 秋葉五社



37 東海道・有松の歌碑



38 有松一里塚



39 東海道



4 0 長坂道



4 1 有松天満社切通しと常夜燈



4 2 藍染川 (手越川)



4 3 有松・鳴海絞の製造技術及び製品①



4 3 有松・鳴海絞の製造技術及び製品②



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
72	江戸時代の情緒に触れる絞りの産地 ～藍染が風にゆれる町 有松～

(1) 将来像 (ビジョン)

- ・愛知県名古屋市南東部に位置する「有松」は、慶長13年(1608年)に尾張藩によって東海道の鳴海宿と池鯉鮒宿の間に開かれて以降400年以上の歴史を持ち、江戸時代後期以降に建てられた伝統的建造物に住民が住み、代々継承されてきた伝統産業である「有松・鳴海絞り」や明治時代以来つく「山車行事」など、歴史的な営みや景観が生活に溶け込んでいる。
- ・住民が中心となり昭和48年に「有松まちづくりの会」を発足させ、昭和49年には「今井町を保存する会(奈良県橿原市)」、「妻籠を愛する会(長野県南木曾町)」とともに全国町並み保存連盟を結成し、昭和53年に有松・足助(愛知県豊田市)において第1回全国町並みゼミを開催するなど、全国に先駆けて住民が主体となった歴史的建造物と町並みの保全・活用に取り組み、現在では約70の団体が参画している。
- ・また、昭和58年に名古屋市の「町並み保存地区」に指定され、建築物等の修理・修景事業を始め、平成18年から25年にかけて無電柱化に取り組むなど、住民と行政が一体となってまちづくりを進めてきた。
- ・平成28年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された後も、住民からの強い要望により、日本遺産認定に向けた取り組みを行った結果、日本遺産に認定されるなど、従前より、まちづくりに対して高い意識を持っている住民たちによって受け継がれてきた歴史のある地域であり、そのような住民たちによって支えられている有松には「有松・鳴海絞り」、「町並み」、「山車行事」という3つの文化が生活の中で根付いている。
- ・これらを継承していくことは、本地域に関わる人々が幸福を享受し、地域の豊かさを実感して、誇りをもって生きることができる暮らしを共創するものであり、日本遺産そのものの価値を高めるものとする。
- ・そこで、日本遺産有松を基盤とした文化財の保存・活用や官民学連携による総合的な取り組みを行うことで、歴史的な景観や産業等が保全され、地域のブランド価値が高まり、文化財が次世代に継承される姿を目的としたまちづくりに取り組む。これら取り組みを通じて、地域の産業の活性化と観光客の増加による経済効果がもたらされ、構成文化財に対するさらなる投資が行われるなどといった仕組み(文化観光)が促進されることを目指す。
- ・令和元年度に認定された日本遺産では、「有松・鳴海絞り」「町並み」「山車行事」の三要素を中心にストーリーを構成し、その浸透や活用を図ってきた。日本遺産ガイダンス施設の整備構想の進展や古民家利活用事業の創設、地域・民間を主体としたツアー造成の取り組みなど、さまざまな成果や波及効果が生まれている。文化資源を活用した観光地域づくりの素地が培われてきており、さらなる発展・拡充とともに、地域の自立・自走化を見据えた体制構築など、持続可能

なものとしていくための取り組みの必要性が高まっている。地域・民間・行政による一体的な取り組みをより着実に、力強いものとしていくため、地域住民の意向をふまえながら「将来像（ビジョン）」の実現へ向けた3つの方向性を設定する。

【将来像】

- 歴史的な町並み、有松・鳴海絞り、山車文化などの文化遺産が受け継がれ、美しい景観と暮らしのなかに溶け込んでいる。
- 昔ながらの伝統と新たな試みが融合し、地区内外の幅広い世代が活躍し、地域に愛着と誇りをもっている。
- 新たな「学び」と「体験」に満ちた観光地が形成され、国内外からの来訪者と住民のあいだで自然かつ感動的な交流が生まれている。

【将来像の実現へ向けた3つの方向性】

① 歴史・文化・まちづくりの蓄積を総合的に生かし、有松・鳴海絞りをはじめとする文化・産業や町並み、風景と生活が調和する『文化観光まちづくり』

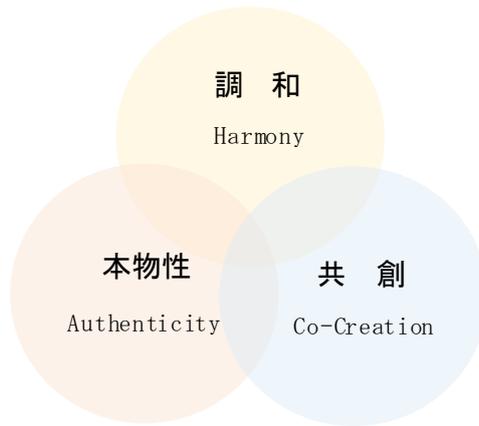
一部地域ではオーバーツーリズムによる生活環境の悪化や地域文化の破壊といった副作用への懸念が広がっており、地域においても生活・文化と調和した観光に期待する声が高まっている。有松は「絞り」を中心として文化・産業と暮らしが連綿と織りなされるとともに、長年にわたってまちづくり活動が持続してきた地区であり、戦略性のあるアプローチを住民・民間等との協働によって進めることにより、「生活との調和」と「本物性の提供」という両輪を実現する。

② 知的好奇心と感性を刺激し、五感をつうじて本物性が実感できる「高付加価値なツーリズム」を創造

高付加価値マーケットの拡大をはじめとして、観光ニーズは一層多様化・細分化している。有松がもつ文化・歴史資源を余すことなく活用し、マーケティングに基づく適切なターゲット設定やクリエイティブなアプローチ、多様なプレーヤーによる協働によって、この場所にしかない独自の「価値」を五感で体感・体験できるツーリズムを創造する。

③ 彩りと深みのあるストーリーを育て、有松の発信力を高める共創のリブランディング

文化資源の活用が重視される日本遺産を契機として新たな事例が生まれつつあるものの、現状では個別の取り組み・発信に留まる傾向がある。地区全体を集約し、共通のストーリーのもとで戦略的に発信するとともに、地区の内外や世代をつなぎ、横断的なコミュニケーションを誘発しながら重層性のあるストーリーを発掘し、磨きあげていくことにより、地区全体のブランド力の向上とバリューチェーンの創出へとつなげていく。



【各種行政計画における位置づけ】

日本遺産有松については、名古屋市の行政計画の上位計画である『名古屋市総合計画 2028』を筆頭に、各部署が所管し作成した個別の行政計画等においても『名古屋市観光・MICE 戦略 2028』、『名古屋市歴史まちづくり戦略』、『名古屋市歴史的風致維持向上計画（第2期）』、『名古屋市文化財保存活用地域計画』に日本遺産有松を計画の取組みとして位置づけし、日本遺産有松を通じた地域活性化を推進していく。『歴史的風致維持向上計画』は、重点区域の一つとして、有松地域を位置付けており、『文化財保存活用地域計画』は、関連文化財群の中の一つに日本遺産有松を取り上げている。関連性が高い両計画においては、計画内でも日本遺産有松の推進を重要視している。

・行政計画関係図



(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-A：日本遺産ストーリーに五感で触れることができる体験型ツアー・プログラム等の種類

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	—	—	—	26 種類	30 種類	35 種類
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>日本遺産ストーリーを五感で感じることができる体験型ツアー・プログラムの種類・事業者数などを充実させ、多様な来訪者のニーズに応えていく。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有松・鳴海絞りの体験（染め・括りなど） ・町並み散策と伝統文化（着物・浴衣、茶道など）の体験 ・歴史的建造物の特別公開と建物内での特別な体験 ・山車まつりの観覧と特別参加 ・地元食材や醸造文化を生かした料理 ほか <p>(※モニターツアーは含まない)</p>					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること

指標②-A：地域の文化に誇りを感じる住民の割合

年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	81%	—	80%	80%	80%	80%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>住民アンケート（令和4・6年度実施）の結果として、現時点においても約8割の方が誇りを感じているため、引き続き、住民アンケート等を実施し、その割合を維持していく</p>					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：日本遺産にかかる公開施設の来場者数及び、地域のイベントの来場者数						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	189,863 人	184,442 人	170,069 人	187,000 人	188,500 人	190,000 人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産にかかる公開施設の来場者数及び、日本遺産関連のイベントの来場者数について把握し、毎年1,500人増を目指す。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：有松地区における補助件数（累計）						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	1 件	7 件	8 件	11 件	15 件	19 件
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	ストーリー構成の3つの柱である「絞り」・「町並み」・「山車」に関する市又は国からの補助件数について各補助の累計で把握していく。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：有松地区における観光消費額						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	—	—	—	12.9 億円	13 億円	13.2 億円
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	来訪者を対象としたアンケート調査等により1人あたりの平均消費額を把握し、有松地区における観光消費額を算出する。 ※2025の一人当たりの消費額については、市内全域における日帰り客（市外から）の平均消費額（2023・最新）で仮置き					

(3) 地域活性化のための取組の概要

【これまでの取り組みの成果と課題】

(行政における主な取り組み)

- ・日本遺産ガイダンス施設として、岡家住宅を取得 (R3)
→保存活用計画を策定 (R4~5)、基本計画 (R6~7)、ワークショップ (R6)、実施設計 (R8~)
- ・重伝建地区、町並み保存地区における技術的・経済的支援を継続実施
→宿泊・飲食などの利活用を促進する「高付加価値化改修・整備事業補助金」を新設 (R6)
- ・有松地区における防災計画を策定 (R3)
- ・「有松地区における古民家利活用事業の考え方」取りまとめ (R4)、連携事業者の募集 (R5)
- ・国際芸術祭「あいち 2022」の会場に設定し、地域との連携のもと歴史的建造物を活用したアート作品の展示等を実施 (R4)
- ・有松に有する3輛の山車の保存・継承にかかる補助の実施
→主な補助事業 ・東町(布袋車)の大幕復元新調 (R1~)
- ・交通事業者(名古屋鉄道)と連携した観光キャンペーンを継続的に実施 (H30~)
→名鉄沿線上の観光拠点である「熱田」との周遊を促進 (R6~)
- ・有松駅前に「日本遺産有松」を紹介する大型看板を設置 (R1)
- ・町並み沿いの店舗入口などで使用する有松・鳴海絞りの「のれん」を制作 (H28)
- ・住民ガイドと連携したインバウンド対応研修 (R1・2・5・6)
- ・市内観光案内所(オアシス21)における有松・鳴海絞り体験を開始 (H31~)
- ・有松・鳴海絞製品を返礼品とする「ふるさと納税」を開設 (R2~)
- ・有松を舞台(岡家、竹田家、有松天満社、河竹小路ほか)とし、地元住民も出演した緑区制60周年記念映画『エム60・ザ・ウォーリア』の制作と公開 (R5~)
- ・クアオルト健康ウォーキング「江戸情緒と絞りのまち日本遺産有松コース」開設 (R6~)
- ・次世代に向けた文化体験提供プロジェクトにて、市内の子ども・若者に向けた有松・鳴海絞り体験会を実施 (R7) ⇒本市発スタートアップ企業「株式会社 Sonoligo」と連携し、市内繊維企業「タキヒヨー株式会社」からの寄附金を原資として実施

(地域・民間における主な取り組み)

- ・鯉活プロジェクト (R2~) 絞りで出来た鯉のぼりを町並みで展示
- ・春のありまつさんぼ道(福よせ雛) 町並みの格子などに「福よせ雛」を飾るイベントを実施
- ・有松史料調査研究 (R1~) 年間を通して家庭に保存されている歴史的史料の調査及び棚橋家住宅において成果発表会を開催 (R3~)
- ・有松絞伝統文化親子教室 (R5~)
- ・市指定文化財「竹田家住宅」の建物・茶室を活用した高付加価値モニターツアー(有松絞り四百年を支えた名家竹田家による徳川将軍ゆかりのおもてなし体験造成事業・R5)
- ・遠州織物とコラボレーションした高付加価値モニターツアー(旧東海道をつなぐ「綿の旅」観光コンテンツ造成事業・R6)
- ・有松地区内で唯一の宿泊施設である「MADO」を拠点としたモニターツアー(コットンロードから

始まる有松絞 400 年の旅・R3)、FAM ツアー (藍染浴衣と日本遺産有松堪能の旅・R5)

- ・市内ホテルにおける有松・鳴海絞を生かした装飾の展開・宿泊プランの造成…名古屋観光ホテル×竹田嘉兵衛商店 (R6)、ザ・ロイヤルパーク アイコニック名古屋×SUZUSAN (R7)
- ・有松天満社を主会場とするマーケットイベント「アリマツマーケット」を定期的に開催。また、クラウドファンディングによって古民家を利活用したレンタルスペース「moss ARIMATSU」がオープン (R6)
- ・歴史的建造物をユニークベニューとして活用するさまざまな事業を実施
蔵コンサート (竹田家)、有松町家ライブ (棚橋家)、日本遺産有松で結婚式 (天満社・竹田家)
- ・有松地区における古民家利活用事業 (ホテル・レストランなど) を推進するまちづくり会社を設立 (R7)
- ・大学の授業及び課外活動との連携を継続的に実施 (桜花学園大学・名城大学・名古屋芸術大学・金城学院大学など)。大学連携を契機として、これまで「有松ミチアカリ」などのイベントや「若手職人の独立・定着」などが生じている。
- ・地元郷土史家のグループ緑区ルネサンスフォーラムによる歴史ガイド付き「有松散策会」(H20~)
- ・その他、各種ツアー、体験型プログラム、学校教育 (小中高校) との連携などを実施

ツアー 40 件、約 820 人/年 ※有松あないびとの会・大ナゴヤツアーズ・ツーリズムデザ
イナーズ (インバウンド) より聞き取り

体験型プログラム 8 事業者、26 種類 (有松・鳴海絞りに関する体験)

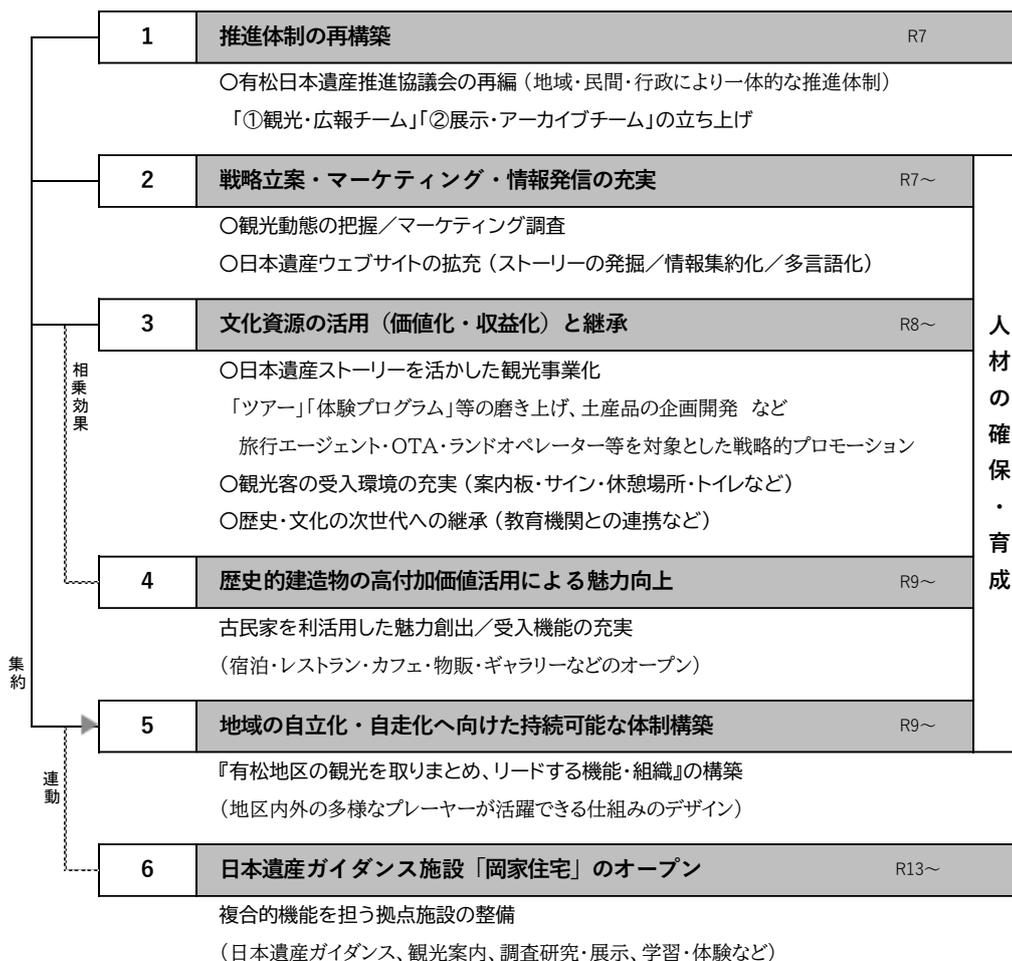
現状と課題

- ・日本遺産を契機として、文化資源 (歴史的建造物・絞りなど) を活用した様々な取り組みが広がっており、これまでのまちづくり活動の継続・蓄積も活かしつつ、「文化観光まちづくり」の素地が培われてきている。
- ・様々な取り組みが進む一方、現状では個別の取り組みに留まっており、相互の連動や相乗効果が十分に生じていない。また、「観光」の取り組みに関しては、文化資源の発掘・活用が一定程度進んだものの、観光事業者へのセールスや継続的な催行という点で課題を抱えている。
- ・地域、民間、行政などの各セクターや地域プレーヤーが十分に連携できておらず、一体感が不足している。
- ・有松地区の観光動態などが把握できておらず、目指すべき方向性やターゲットなどが漠然としている。
- ・個別の広報に留まっており、地区全体として効果的な情報発信が不足している。また、情報が集約されていないため、来訪者の利便性が十分に確保されていない。



【今後 3 年間の取り組み】

- ・前出の「将来像 (ビジョン)」「3つの方向性」「現状と課題」をふまえ、日本遺産の推進体制や事業内容を再構築し、以下の 6 つのステップを設定し着実な取り組みを進めていく。(本計画の対象期間はステップ 5 まで)



① 推進体制の再構築

- ・行政側の組織（有松日本遺産推進協議会）と地元側の組織（有松日本遺産運営協議会・有松日本遺産実行委員会）を統合し、地域・民間・行政がより一体的に日本遺産に取り組む体制を再構築する。再編した協議会のなかに2つの検討チーム（①観光・広報、②展示・アーカイブ）を立ち上げ、取り組みの戦略性・実行性を高める。
- ・有松まちづくりの会などと連携し、『有松地区における観光を取りまとめ、リードする機能・組織』の構築へ向けて、マーケティング調査に基づく戦略立案、具体的な観光事業化、広報・プロモーションなどの取り組みを進める。 ※詳細は(4)に記載

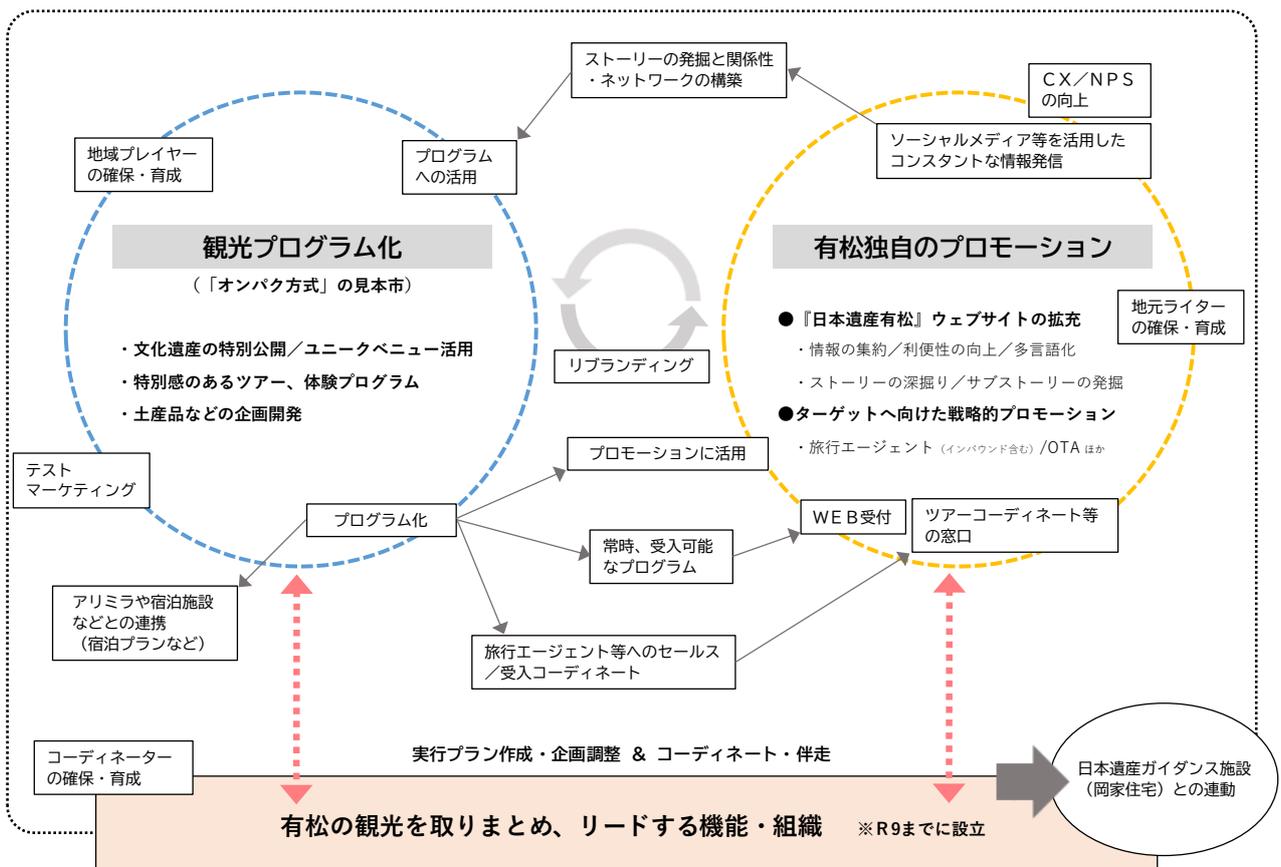
② 戦略立案・マーケティング調査・情報発信力の強化

- ・有松地区の観光動態を把握するため、令和7年度から継続的にマーケティング調査を実施する。調査方法：Web アンケート方式（日英）、調査対象：施設・イベント・ツアー等の来訪者などを想定。
- ・調査結果に基づき、『観光・広報チーム』を中心に、有松地区における観光地域づくりの戦略や実行プラン等の企画・立案を行う。
- ・日本遺産有松ウェブサイト拡充し、有松への来訪に必要な情報（観光スポット・体験プログラム・飲食・宿泊など）を集約、多言語化し、来訪者の利便性を向上する。また、「メディア機能の付加」「ソーシャルメディアの活用」によるコンスタントな情報発信や、「日本遺産ストーリーの深掘り」「サブストーリーの発掘」などにより、編集力・発信力の向上を図る。

③ 文化資源の活用（価値化・収益化）と継承

- ・民間事業者等と連携して、有松が有する多様な文化資源を活用した「観光事業化（ツアー・体験プログラム・土産品等）」や「ユニークベニューとしての活用」を推進する。
- ・地域や民間による「観光事業化」を促進するためのプラットフォームとして、オンパク方式の見本市イベントを開催（当初は秋頃を想定）。高付加価値なプログラムを継続的に磨きあげ、インバウンドをはじめとするツアー造成・誘客等につなげる。

『観光事業化』『情報編集・発信』『人材育成』『体制構築』のための2つのプラットフォーム



- ・名古屋市域全体の地域DMO（令和7年10月登録）である（公財）名古屋観光コンベンションビューローや民間事業者と連携し、磨きあげたツアー・プログラム等を活かして、国内外の旅行エージェント、OTA、インバウンド専門エージェント、ランドオペレーター、ホテル等を対象としたプロモーションやツアーの予約受入・コーディネート等を実施。
- ・交通事業者と連携した観光キャンペーンを実施するなど、他地域とも連携しながら広域的な情報発信・誘客を行う。
- ・案内板、サイン等の多言語化やトイレ・休憩場所の整備、インバウンドを対象とした接客研修（ガイド・店舗対応など）などを実施。国内外からの来訪者の受入環境を充実し、地区全体のおもてなしの向上を図る。
- ・子ども向けのツール（パンフレット等）や学習・体験機会を充実、教育機関（小学校～大学）との連携など、地域固有の歴史・文化・産業の次世代への継承を図る。

④ 歴史的建造物の高付加価値活用による魅力向上

- ・令和7年に設立された古民家利活用のためのまちづくり会社「有松未来創造株式会社」を中心として、歴史的建造物の高付加価値な活用（宿泊・飲食・カフェ・物販・ギャラリーなど）を着実に進め、地区全体の魅力向上と多様で快適な滞在を促進する。

（令和9年度以降、順次オープン予定）

- ・体験プログラムや土産品を組み込んだ宿泊プランを造成するなど、②③の取り組みの成果と連動

⑤ 地域の自立化・自走化へ向けた持続可能な体制構築

- ・協議会を中心として、多様な連携のもとで①～④の取り組みを進めながら、プロデュースやコーディネート、マーケティング等を行う人材の確保・育成を図り、日本遺産の取り組みの実働部隊であり、「地区全体の観光を取りまとめ、リードする機能・組織」を構築する。

【想定する機能】

- ・地区全体の観光動態等を把握し、数値化し、企画立案（プロデュース）する
- ・さまざまなプレイヤーや世代、地域の内外をつなぎ、コーディネートし、価値創造や収益性向上につなげる
- ・地区全体の情報を集約・編集・発信し、ブランディングを推進する
- ・歴史・民俗資料などの調査研究とまちづくりへの活用

⑥ 日本遺産ガイド施設「岡家住宅」のオープン

- ・歴史的建造物の公開、史料の調査・研究・展示、観光案内、体験・学習・交流の窓口、地区における観光・イベント等の企画調整など、複合的な機能を有する拠点施設として「岡家住宅」を整備。①～⑤の取り組みを集約し、地区全体で総合的・持続的な取り組みを行っていくための中核施設とする。R6・7 基本計画、R8・9 実施設計、R10～修復整備を予定。

1. 組織整備

- 日本遺産推進協議会の再編
（地域・民間・行政の一体的な体制への移行）
- 有松地区の「観光」の取り組みをとりまとめ、リードする機能・組織の構築

2. 戦略立案

- 観光マーケティング調査
- 検討チームにおける戦略・実行プランの検討



3. 人材育成

- 多様な人材が活躍できる機会・場づくりと地域プレイヤーの確保・育成
- インバウンド向けおもてなし研修

4. 整備

- 日本遺産ガイド施設の整備（岡家住宅）
- まちづくり会社による「古民家利活用事業」
（宿泊・レストラン・カフェなど）
- 観光客受入環境の整備（多言語化など）
（案内板・サイン・トイレ・休憩場所など）

5. 観光事業化

- 日本遺産ストーリーに五感でふれるツアー・体験型プログラムなどの磨き上げ
（高付加価値ツーリズム化）
- 文化遺産のユニークバリューとしての活用
- OTA、旅行エージェント（インバウンド含む）等へのプロモーション（地域DMOと連携）
- 交通事業者と連携した周遊促進キャンペーン

6. 普及啓発

- 出前授業での有松・鳴海絞体験（小中高校）
- 地元史料の調査・研究・公開
- 有松絞まつり、山車祭り
構成文化財を活用したマルシェ・イベントなど

7. 情報編集・発信

- 日本遺産「有松」ウェブサイトの拡充
・ストーリーの深掘り、サブストーリーの発掘
・情報の集約化・多言語化・DX化・メディア機能
- ターゲットを意識した戦略的プロモーション
・WEB広告、ソーシャルメディアの活用



江戸時代の情緒に触れる絞りの産地
～藍染が風にゆれる町 有松～

今後3年間の主な取り組み

【ターゲット】

〈3つの方向性〉や住民意向などから、当面は下記の3つのターゲットを設定

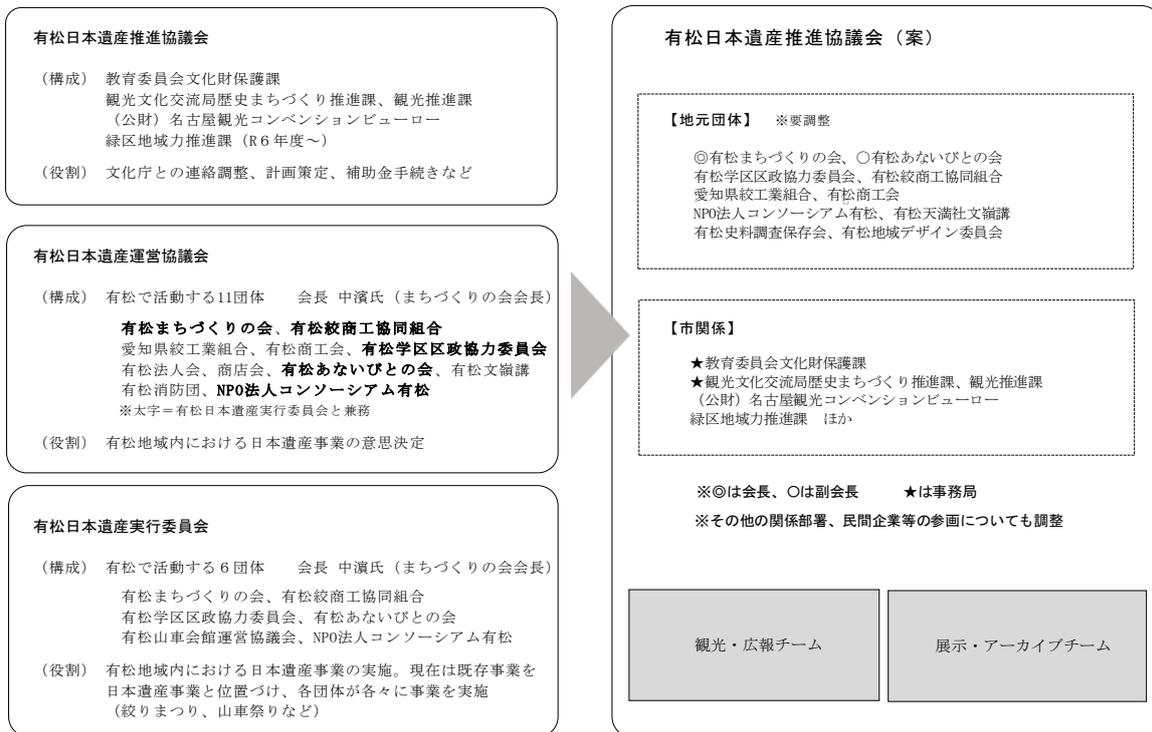
※マーケティング調査などに基づき、一層の細分化・ペルソナ設定や随時修正を行う

- ① 歴史・伝統・文化・工芸・アートなどを好む、本物・カルチャー志向の来訪者
- ② インバウンドをはじめとする高付加価値ツーリスト
- ③ 子どもから大人まで、「学び」や「体験性」を重視する層

(4) 実施体制

- ・行政側の組織（有松日本遺産推進協議会）と地元側の組織（有松日本遺産運営協議会・有松日本遺産実行委員会）を統合（R7）し、地域・民間・行政がより一体的に日本遺産に取り組む体制を構築する。協議会は、日本遺産に関する取り組みを統括し、PDCA サイクルによる進捗管理を行う。（年に1～2回の開催を想定）

有松日本遺産推進協議会の再編について（案）



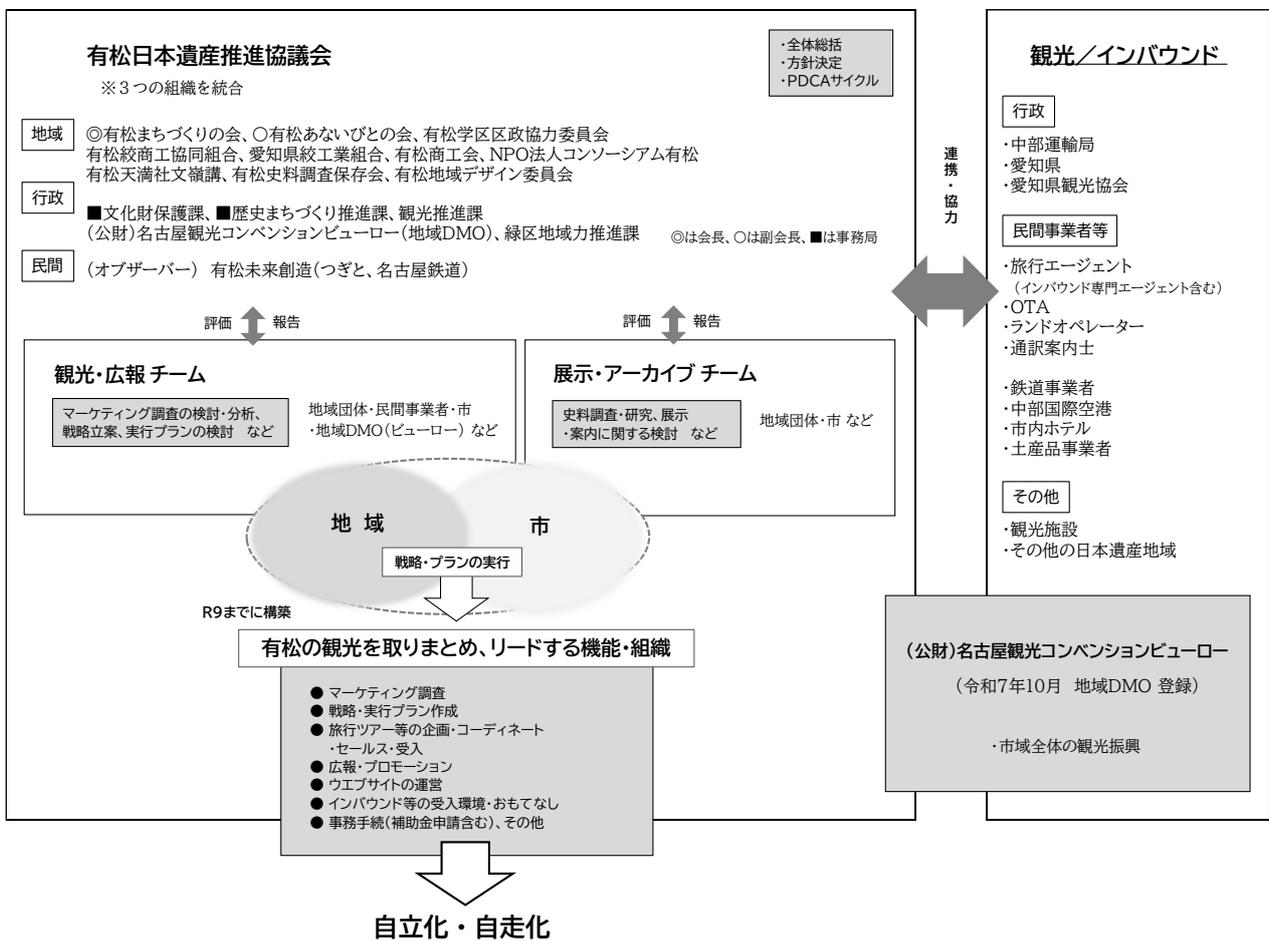
- ・協議会のなかに2つの検討チーム（①観光・広報、②展示・アーカイブ）を設置（R8）。

『観光・広報チーム』は地域住民・民間事業者・行政などで構成し、定期的（5～6回／年）に開催。マーケティング調査の検討・分析、戦略立案、実行プランの策定などを行う。

『展示・アーカイブチーム』は、地元史料の調査研究・公開を継続的に行うとともに、岡家住宅の整備などをふまえて、展示・案内等にかかる検討を行う。

- ・協議会において観光事業化・情報発信などの具体的取り組みを行いながら人材を確保・育成し、自立化・自走化へ向けて、本計画期間内に『有松地区全体の観光の取り組みをとりまとめ、リードする機能・組織』を構築する。
- ・令和7年度には、「有松日本遺産推進協議会」の再編のちに、地域・民間・行政等による勉強会・ワークショップ（3～4回）を開催。日本遺産の趣旨や他事例などを紹介し、今後の方向性などを共有する。その後、協議会内に検討チームを設置し、戦略・実行プランなどの策定、観光・広報等に関する取り組みの具体化・実行へとつなげていく。
- ・令和7年度には（公財）名古屋観光コンベンションビューローが市内全域の「地域DMO」として登録され、マーケティングオフィサーが登用されることから、同法人とも密に連携しながら上記の取り組みを着実に進めていく。

推進体制図



[人材育成・確保の方針]

- ・約半世紀にわたるまちづくり活動の継続・蓄積がある有松地区は、住民を中心としたコミュニティが持続しているほか、若い職人や新しい店舗などの新規参入も一定程度促進されている。地区内外のゆるやかなネットワークが形成されつつあり、様々な活動や関係性の蓄積を活かしつつ、さらに発展させていくことがポイントとなる。
- ・協議会において、観光事業化（ツアー造成、体験プログラム、商品開発など）、古民家利活用、

広報・プロモーションなどの具体的な取り組みを行いながら、プロデューサー、コーディネーター、多様な地域プレーヤーを確保・育成を図り、ネットワークを構築する。

- ・有松地区においてガイドを行う「有松あないびとの会」と連携し、インバウンドを含めた接遇研修を行う（R1・2・5・6実施済）。また、市広報等を通じて新規ガイドを募集し、日本遺産有松に関わる人材の確保・育成を図る。
- ・地元小中学校における日本遺産有松に関する課題授業や「伝統文化親子教室」、大学授業や研究活動との連携などの機会を通じて、伝統や文化の普及啓発と次世代への継承を図る。また、転入者を対象として「日本遺産有松」の紹介・啓発を行うなど、日本遺産を契機としたシビックプライドの醸成を図る。
- ・地元住民を対象として、日本遺産に関するワークショップ・勉強会などを開催し、取り組みの方向性の共有や機運の醸成を図る（R7～）。

（５）日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

- ・有松においては、有松まちづくりの会をはじめ住民や事業者により構成される団体が自立、自走した活動が実施されており、これらの団体等の活動として、絞りまつりや山車まつりなどの日本遺産有松の魅力向上事業が実施されてきた。
- ・現在、有松地区では名古屋市が行う市指定文化財「岡家住宅」の日本遺産ガイダンス施設への改修・整備や、民間事業者が伝統的建造物を宿泊や飲食施設に改修し、面的・連鎖的に活用する「有松古民家利活用事業」など新たな事業が進みつつある。
- ・今後は、観光事業化や情報発信などの具体的取り組みを行いながら人材を確保・育成し、本計画期間内に『有松地区の観光を取りまとめ、リードする機能・組織』を構築する。
- ・自立化・自走化に向けては収益強化が重要となるため、日本遺産関連商品・ツアーなどの開発・販売を行うほか、財源確保について検討する。

（６）構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

有松地区では、「伝統的建造物群保存地区」や「町並み保存地区」の伝統的建造物、江戸時代以来受け継がれる有松・鳴海絞り、山車行事など、歴史的な景観や建造物、伝統的な産業や文化が保存・継承されている。多様な資源を活用することでバリューチェーンに基づく経済効果を生み出し、保存と活用の好循環を創出する。

（１）古民家利活用事業

- ・令和５年度から名古屋市と市と連携する民間事業者が実施している「有松古民家利活用事業」において、令和７年２月に地元代表者、名古屋鉄道（株）、連携事業者が参画し、事業を主体的に実施するまちづくり会社「有松未来創造株式会社」を設立した。
- 今後、まちづくり会社が事業計画の策定、資金調達を行い、伝統的建造物を面的・連鎖的に改修・整備し、宿泊・レストラン・カフェ・ギャラリーなどの利活用を進める（当初オープンは令和９年度を想定）。

(2) 岡家住宅の公開活用

- ・市指定文化財「岡家住宅」を日本遺産ガイダンス施設に整備するため、令和3年度に名古屋市が取得。日本遺産ガイダンス施設として公開活用するため、市と地域が連携して令和6・7年度の2ヶ年かけて基本計画の策定に向けてワークショップ形式で検討を行っている。(岡家住宅は現在暫定公開を実施中)
- ・今後、観光交流や歴史資料の調査・研究などの複合的機能を有する拠点施設として整備し、地区内への波及効果の創出を図る。

(3) 文化資源の活用（価値化・収益化）の推進

①観光事業化

民間事業者等と連携して「インバウンドを含む高付加価値なツアー造成」や「特産品・工芸品等の企画開発」などを行い、文化資源を収益へと結びつける取り組みを促進・支援する。

②ユニークベニューとしての活用

発信力の高い文化芸術などを組み合わせ、歴史的建造物などをユニークベニューとして活用する。収益性のある取り組みを促進するほか、文化的な価値を付与することにより地区全体の発信やリブランディングにつなげる。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	「有松日本遺産推進協議会」等組織体制の強化		
概要	地域・民間・行政が一体的に日本遺産に取り組めるよう「有松日本遺産推進協議会」を再編し、PDCA サイクルによる進捗管理を行う。また、協議会内部に「検討チーム」を設置し、戦略・実行プラン等を検討・策定するとともに、具体的な取り組みを進めながら、自立化・自走化へ向けて『有松地区の観光を取りまとめ、リードする機能・組織』を構築する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	有松日本遺産推進協議会の再編	現行の3団体（有松日本遺産推進協議会・有松日本遺産運営協議会・有松日本遺産実行委員会）を統合し、地域・民間・行政がより一体的に日本遺産に取り組む体制を構築。日本遺産の取組全体を統括し、PDCA サイクルによる進捗管理を行う。	・有松日本遺産推進協議会
②	『検討チーム』の設置と運営	「観光・広報」「展示・アーカイブ」の2つの検討チームを設置し、マーケティング調査等に基づく「戦略」や「実行プラン」等を検討、具体化する。	・有松日本遺産推進協議会
③	『有松地区の観光を取りまとめ、リードする機能・組織』の構築	地域と連携しながら、自立化・自走化を見据えた組織の構築へ向けた検討・準備を行う（プロデューサー・コーディネーター等の人材を確保し、本計画期間中の構築を想定）	・有松日本遺産推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	有松日本遺産推進協議会及び運営協議会、実行委員会の会議開催回数		2回
2023			2回
2024			2回
2025	協議会・検討チームへの行政組織以外の参画者数		10 団体・人
2026			13 団体・人
2027			15 団体・人
事業費	2025 年度：0円 2026 年度：0円 2027 年度：0円		
継続に向けた事業設計	各年度において、事業決定・中間報告・事業結果の報告の場を設けて、PDCA サイクルによる進捗管理及び課題解決をするとともに、自立化・自走化へ向けた取り組み・体制構築を行う。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	観光マーケティング調査と戦略立案		
概要	マーケティング調査等に基づき有松地区の観光動態を把握し、検討チームを中心に具体的な「戦略」「ターゲット設定」「実行プラン（観光事業化・プロモーションなど）」の企画・検討を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	各種行政計画への位置づけと進捗管理	各行政計画に記載されている日本遺産有松に関する事業の進捗管理を行う。	・名古屋市
②	観光マーケティング調査の実施	観光施設や宿泊施設、ツアー参加者等を対象とした WEB アンケート調査や入館者数、各種統計データの集約等によるマーケティング調査を実施。	・有松日本遺産推進協議会
③	検討チームにおける「戦略」や「実施プラン」の企画・検討	民間事業者等も参画する「観光・広報チーム」において、観光動態の分析、戦略・実施プランなどの企画・検討を行う。	・有松日本遺産推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	行政計画に記載された件数		0件
2023			1件
2024			4件
2025	有松日本遺産推進協議会、検討チームの開催件数		3回
2026			6回
2027			8回
事業費	2025年度：500千円 2026年度：2,000千円 2027年度：2,000千円		
継続に向けた事業設計	自立化・自走化を見据えた『有松地区の観光を取りまとめ、リードする機能・組織』の構築へ向けて、マーケティング調査等による観光動態の把握や、検討チームにおける「戦略」「実行プラン」の企画・検討を継続的に行っていく。		

(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名	地域プレイヤーの確保・育成		
概要	日本遺産の取り組みを中心的に行う地域団体などに加えて、取り組みを支える地域プレイヤーやコーディネーターの確保・育成とネットワークの構築を図る		
	取組名	取組内容	実施主体
①	市内学校等での有松・鳴海絞り体験	市内の学校等で絞り体験活動を実施し、次世代の担い手となる子どもたちへ有松・鳴海絞りの魅力を伝える。	・名古屋市 ・有松絞商工協同組合 ・愛知県絞工業組合
②	観光事業化等を通じた地域プレイヤーの確保・育成	観光事業化、商品開発、広報・プロモーション等を通じて、日本遺産を活用した事業に主体的に取り組む多様な地域プレイヤー（ガイド・絞り職人・建築家・デザイナー・ライターなど）を確保・育成する。	・有松日本遺産推進協議会
③	次世代への絞り技法の継承・職人の育成	3ヶ年にわたる絞り技法の養成講座を継続的に実施し、技法の継承と若手職人の育成を図る。	・愛知県絞工業組合
④	日本遺産に関するワークショップ・勉強会等を開催	住民等を対象として、日本遺産の取り組みに関するワークショップ・勉強会等を開催。	・有松日本遺産推進協議会
⑤	ガイドボランティア（あないびとの会）の募集・育成	日本遺産ストーリーを来訪者に案内するガイドボランティアを対象としたインバウンド向けおもてなし研修を行い、ホスピタリティの向上を図る。	・名古屋市 ・有松あないびとの会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	地域プレイヤー登録人数 (有松まちづくりの会・あないびとの会登録人数)		215人
2023			219人
2024			227人
2025	日本遺産の取り組みに関わる地区内外の団体・事業者等の数		14団体
2026			18団体
2027			22団体
事業費	2025年度：700千円 2026年度：5,000千円 2027年度：5,000千円		
継続に向けた事業設計	・民間事業者等と連携しながら観光事業化や広報・プロモーションなどを行い、日本遺産の取り組みに関わる地域プレイヤーを増やし、ネットワークを構築する。		

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	歴史的建造物の保存・活用		
概要	地域内外の来訪者に日本遺産有松のストーリーを体感できる場を提供するための拠点整備や、伝統的建造物及び町並みの景観を保全するための各種事業を実施		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産ガイダンス施設の整備	市指定文化財の岡家住宅について、文化財の保存活用を図り、日本遺産のガイダンス施設（観光交流の拠点）として整備。 また、既存の公開施設である「有松・鳴海絞会館」及び「山車会館」についても展示の整備を行い、地区内の回遊性とストーリーへの理解度を向上する。	・名古屋市 ・絞会館 ・山車会館
②	伝統的建造物の利活用（古民家利活用事業）	有松地区にある伝統的建造物を宿泊・レストラン・カフェ・ギャラリー等へ利活用し、町の新たな賑わいを創出する。	・名古屋市 ・有松未来創造（株）
③	重伝建及び有松町並み保存補助金等による支援	有松地区にある建物を維持するため、各種補助金による支援を実施。	・名古屋市
④	町並み相談会の開催	日本遺産有松の町並みの景観保全を行うため、各町内や各団体の代表者及び有識者により構成する町並み相談会を開催し、有松地区内にある建物の外観等を変更する場合の助言等を実施。	・有松まちづくりの会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022			9回 補助件数0件
2023	町並み相談会開催数（累計） 補助件数（累計）		18回 補助件数5件
2024			23回 補助件数5件
2025			町並み相談会開催数（累計） 保存補助及び利活用補助件数（累計）
2026	町並み相談会開催数（累計） 保存補助及び利活用補助件数（累計）		35回 10件
2027	町並み相談会開催数（累計） 保存補助及び利活用補助件数（累計） 古民家利活用事業による新たな拠点創出		41回 14件 2件
事業費		2025年度：44,000千円 2026年度：147,000千円 2027年度：331,000千円	

継続に向けた事業設計	<ul style="list-style-type: none"> ・岡家住宅は、令和6・7年度において、基本計画策定し、令和8年度以降、実施設計、改修を実施し、ガイドンス施設として整備を予定。 ・古民家利活用は銀行融資、民間出資を募るほか、国や市の補助を活用し、令和7年度から順次各物件の設計、改修を実施予定。
------------	---

(事業番号4-B)

事業名	観光客の受入環境の充実
概要	案内板・サインの充実（多言語化）、トイレ・休憩場所等の整備、町歩きアプリによる町歩きコースの提供などにより、観光客の受け入れ環境を充実

	取組名	取組内容	実施主体
①	観光案内所の運営及びまちかど案内所の設置	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋観光コンベンションビューローが運営する名古屋駅、オアシス21（栄）、金山にある3つの観光案内所（JNTO認定カテゴリー3）及び緑区内の民間事業者の協力により設置しているまちかど案内所において、日本遺産有松に関する観光案内を実施。 ・日本遺産ガイドンス施設として整備する「岡家住宅」に観光案内機能を付与し、将来的に有松地区における案内機能の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市 ・名古屋観光コンベンションビューロー ・緑区観光推進協議会 ・区内事業者
②	まち歩きアプリの活用	市内にある歴史的な施設やスポットを紹介し、まち歩きコースを紹介する「なごや歴史探検アプリ」を活用し、日本遺産有松の構成文化財を巡るまち歩きコースを提供。	・名古屋市
③	観光客受入環境の整備（案内表示・サイン・トイレ・休憩場所等）	・有松地区内の周遊を円滑にし、日本遺産ストーリーに対する理解度を向上するため、案内表示・サインの充実・多言語化を行うほか、観光客が快適に過ごせる環境整備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・有松日本遺産推進協議会 ・名古屋市

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	「なごや歴史探検」アプリのダウンロード数	24,014件
2023		29,660件
2024		40,162件
2025	有松への来訪者の満足度（%）	算定中
2026		未定
2027		未定

事業費	2025年度：0千円 2026年度：5,000千円 2027年度：5,000千円
-----	--

継続に向けた事業設計	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドンス施設の整備や案内表示・サインの充実等により、日本遺産ストーリーに対する理解度やおすすめ度を向上する仕組みを構築する。 ・日本遺産ストーリーの深掘りやサブストーリーの発掘を継続的に行い、案内
------------	---

	表示やガイド、ウェブサイトなどに活用する。
--	-----------------------

(7) - 5 観光事業化

(事業番号 5 - A)

事業名	ツアー・体験プログラム等の拡充と戦略的プロモーション		
概要	日本遺産のストーリーを活かしたツアー・体験プログラムの造成等により魅力を磨きあげるとともに、ターゲットにあわせた戦略的プロモーションを実施。また、交通事業者や観光・地域団体等と連携し周遊促進を図り、他エリアからの誘客促進を実施		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産のストーリーを活かしたツアーの造成	町並みのガイドや有松・鳴海絞の体験、歴史的環境での特別な体験などを含んだツアー等を民間事業者と連携してターゲット別に企画し、継続的に販売（インバウンド・ユニークベニュー開発を含む）。	・有松日本遺産推進協議会
②	体験型コンテンツの充実	多様な地域プレーヤーと連携しながら、日本遺産有松の魅力を五感で楽しむ「体験型コンテンツ」（絞りや伝統文化、まち歩きなど）を充実する。	・有松日本遺産推進協議会
③	交通事業者と連携した周遊促進キャンペーン（名鉄キャンペーン）	名古屋鉄道（株）等と連携し、往復乗車券と有松と熱田の魅力をおトクに満喫できるクーポン券をセット販売。名鉄沿線上の同エリアの相互往来を図ることで、日本遺産有松への誘客および観光消費の拡大を促進。	・名古屋市
④	市内周遊キャンペーン	有松含めた市内各所を巡りながら、各地の魅力を体感してもらえるよう、スタンプラリーをはじめとする周遊促進企画を実施することで、回遊性を高め、有松への誘客を強化する。	・名古屋市
⑤	地域 DMO 等と連携したセールス・プロモーション	地域 DMO（令和 7 年 10 月登録）の名古屋観光コンベンションビューローや民間事業者と連携し、国内外の旅行エージェント、OTA、インバウンド専門エージェント等を対象とした BtoB プロモーションを戦略的・継続的に行う。	・有松日本遺産推進協議会 ・名古屋観光コンベンションビューロー

⑥	まちなみガイド	東海道の町並みと絞り産業や山車など有松の文化に触れるによるガイドを実施。	・有松あないびとの会
⑦	有松・鳴海絞り染め体験	市内中心部に位置するオアシス21センター（観光案内所）において毎月1回絞り染め体験イベントを実施し、来訪者層の拡大を図る。	・名古屋観光コンベンションビューロー
⑧	各種ウォーキングイベント等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土歴史家による有松にまつわる歴史解説付きの散策会を実施。 ・心身を健康にするクアオルト健康ウォーキングの「江戸情緒と日本遺産のまちなみ有松コース」を策定、新しいファン層を拡大し、日本遺産有松の認知向上や誘客を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑区ルネッサンスフォーラム ・緑区観光推進協議会 ・名古屋市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	名鉄キャンペーン地域協力事業者数		30 店舗
2023			33 店舗
2024			30 店舗
2025	有松地区へのツアー参加者のおすすめ度（NPS）		算定中
2026			未定
2027			未定
事業費	2025 年度：23,474 千円 2026 年度：23,474 千円 2027 年度：23,474 千円		
継続に向けた事業設計	民間事業者や地域 DM0 等と連携し、有松地区へのツアーや体験型プログラム、関連商品などを充実させ、多角的な収益性の向上と各事業の自走化を図る。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	次世代の担い手たちへの文化の継承		
概要	学校等と連携を行い、次世代の担い手となる子供たちへ有松・鳴海絞りや有松地区の魅力を伝え、伝統文化の継承を行っていく		
	取組名	取組内容	実施主体
①	市内学校等での有松・鳴海絞り体験	市内の学校等で絞り体験活動を実施し、次世代の担い手となる子どもたちへ有松・鳴海絞りの魅力を伝える。	・名古屋市 ・有松絞商工協同組合 ・愛知県絞工業組合
②	地元中高生の総合授業での有松絞り体験などを実施	地域小中高のキャリアナビゲーターの協力をえて、地元有松の絞りや文化歴史、また有松の絞り職人と直接交流、わが町有松を誇りと思ってもらい、地域活動への参加や、定住促進へとつなげる。	・地元小中高 キャリアナビゲーター
③	大学教育との連携	人文社会・経済・建築・デザイン（テキスタイル）など、幅広い領域の大学連携を促進。	・市内大学 など
④	有松絞りまつり	まつりを通してストーリー関連商品である「有松・鳴海絞り」の商品販売や絞り体験を大々的に行い、有松地区が持つ伝統文化の魅力をより多くの人に伝え、またストーリーの認知度向上に努める。	・有松絞りまつり実行委員会
⑤	有松天満社秋季大祭（山車まつり）	地区に残る3輦の山車が一斉にからくりを披露する祭礼は、絞産業の隆盛により花開いたまつり文化であり、山車の曳行やお囃子などの地域活動への参加を通し、文化を次世代へ継承する。	・有松天満社 文嶺講
⑥	婚活イベントの実施	結婚を望まれている方の出会いの場として有松で地元スイーツと絞り体験を含む出会いウオーキングなどを実施、成婚・出産してからも有松が思い出の地となるような仕掛けづくりで次世代のさらに先まで有松の文化を継承する。	・名古屋市
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	有松・鳴海絞り体験学習実施学校		6校
2023			6校
2024			6校

2025	〃	10 校
2026	〃	15 校
2027	〃	15 校
事業費	2025 年度：2,000 千円 2026 年度：1,500 千円 2027 年度：1,500 千円	
継続に向けた事業設計	地域が伝統的に続けているお祭りを継続していくとともに、学校での体験やイベントを通じて次世代の担い手たちへの普及啓発を図っていく。	

(事業番号 6-B)

事業名	地域住民や民間企業を巻き込んだ日本遺産有松・普及啓発事業
概要	有松にお住まいの方や地元民間企業などと連携し、地域住民への認知度を高めるとともに、国内外の方々に有松の魅力を伝えていくもの。

	取組名	取組内容	実施主体
①	有松かわら版発行	有松まちづくりの会が地元住民を対象に広報誌を発行、有松地区内で行った行事やイベント等について報告。	・有松まちづくりの会
②	有松よもやまばなし発行	有松の歴史にまつわる話を編さんし発行。まちづくりの会ホームページで公開するほか、町歩きイベントや絞りまつりなどでも活用。	・有松まちづくりの会 ・有松あないびとの会
③	地元史料調査及び公開	有松の町並みや絞りに関する資料等を調査研究し、その成果の一般公開を行う。	・桜花学園大学
④	構成文化財等を活用した各種イベント	町並み・絞りを活用したイベントやマルシェ、文化芸術によるユニークベニューとしての活用などを実施。	・有松日本遺産推進協議会
⑤	藍染が風にゆれる日本遺産のまち有松寄附金	ふるさと納税寄附返礼品として有松・鳴海絞り製品を提供。名古屋市外の方への日本遺産有松 PR を実施。	・名古屋市

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	地域・民間主導によるイベント実施数	49 件
2023		57 件
2024		59 件
2025		60 件
2026		60 件
2027	〃	60 件
事業費	2025 年度：8,000 千円 2026 年度：8,000 千円 2027 年度：8,000 千円	

継続に向けた事業設計	イベントや地元史料の調査・展示、広報・啓発活動など、住民の主体的な取り組みについてPRや支援を行う。
------------	--

(7) -7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	日本遺産有松のPR
概要	広報物制作、WEBサイト等による情報発信し、日本遺産有松のPRを実施するとともに誘客促進を実施

	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産有松ウェブサイトの再構築（拡充）	観光に必要な情報（観光スポット・体験プログラム・飲食・宿泊・土産品など）の集約、多言語化、ターゲット別の情報編集など、日本遺産有松のウェブサイトを拡充。メディア機能の付加、ソーシャルメディアの運営等により、ターゲットを意識した恒常的・タイムリーな情報発信を行う。	・有松日本遺産推進協議会
②	日本遺産ストーリーの編集・発信	ウェブサイト等において、日本遺産ストーリーの深掘りやサブストーリーの発掘、有松に関わる「人」に着目した発信を行い、奥行きのある魅力をプレゼンテーションする。	・有松日本遺産推進協議会
③	広報物制作およびPR	来訪者向けパンフレット（日英）、子ども向け学習パンフレット、ポスター等を作成し、各所で配布・掲出する。	・有松日本遺産推進協議会 ・名古屋市
④	名古屋コンシェルジュ内での情報発信	名古屋市公式観光WEBサイトにおいて、有松観光施設および季節イベント紹介ページを作成、情報発信を実施。	・観光コンベンションビューロー
⑤	緑区観光推進協議会・緑区ルネッサンスフォーラムによる情報発信	地元観光推進協議会や郷土史家団体（緑区ルネッサンスフォーラム）により各種パンフレットや定期刊行物を官公庁・名鉄・市営地下鉄等に配布、日本遺産有松の歴史文化の深さをPRする。	・緑区観光推進協議会 ・緑区ルネッサンスフォーラム

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	日本遺産ウェブサイトアクセス数	11,978回
2023		12,644回
2024		13,097回

2025	//	14,000 回
2026	//	15,000 回
2027	//	16,000 回
事業費	2025 年度 : 500 千円 2026 年度 : 6,000 千円 2027 年度 : 6,000 千円	
継続に向けた 事業設計	地域住民や日本遺産に関わるさまざまな団体と連携し、SNS の連動など 波状的な情報発信を行う	